

特集

70年前から協同へのメッセージ

争論では、斎藤氏に戦前・戦中の消費組合について語っていただき、国家体制に押されながらも極限まで庶民のくらしに寄り添えるように努力していた様子が窺えた。では、実際にどのような活動が繰り広げられていたのだろうか。また、実際に戦争を体験し、戦後生協に関わった人たちは、協同組合にどのような思いを託しているのだろうか。特集では、戦前・戦中の消費組合に関する研究者や、実際に戦争を体験した生協人にご登場いただき、当時の様子から、現在の生協について考えてみたいと思う。

尾崎智子氏には、戦時下における消費組合の家庭会や婦人会の役割について述べていただく。日本消費組合婦人協会は1936年に設立され、その設立宣言文に「平和」が謳われている。当時の婦人たちが、戦中どのような活動に取組み、どのような役割を果たしていたのか、資料をもとに分析した内容をご紹介します。

加山久夫氏には、賀川豊彦よっての戦争と日本生協連創立、そして平和宣言への思いという内容で、戦後の生協に託された希望について語っていただいた。

野尻武敏氏には、ご自身の戦争体験も踏まえながら、協同組合研究に従事されてきた背景と協同組合研究に対する思いについてお話いただくことにした。

また、くらしと協同をたずねてのコーナーでは、戦争と平和を考える上で忘れてはならない沖縄を取り上げる。70年経った今でも、基地移設問題で渦中に立たされている。常に危機感を抱きながら平和活動に取り組んできたコープおきなわの歩みと今後について、理事長である山本靖郎氏にご寄稿いただいた。

これらのお話をふまえ、今後の協同組合と平和について考えるきっかけとなれば幸いである。 (紗)

1. 戦時下の生活と女性運動～日本消費組合婦人協会の活動から (尾崎(井内)智子)
2. 平和とよりよい生活のために ～協同組合運動における賀川精神 (加山 久夫)
3. 共同体の再建に貢献する協同組合へ (野尻 武敏)